

16 小児の歯科治療を円滑に行うための
母親と小児に対するアプローチについて

○春岡龍男、名越恭子*、中島龍市*、
渡辺 博*、木村光孝*

はるおか歯科・小児歯科、九歯大・小児歯*

小児歯科の臨床においては成人の治療に比べ、様々なトラブルが
起りやすい。そのため、多くの配慮と説明が必要である。しかしな
がら、その対処が小児と母親に対し、ただでさえ多様な小児の治療
に対し、時間的、内容的な制約を持ってしまふことが多く思われる。

そこで、十分なコミュニケーションを保ちながらも、限られた時間
の中で、より多くの成果を要求される治療の現場においては、小児
とその母親に対し、治療に対する説明、理解を得るための様々なア
プローチが必要であろう。そして、それは十分に合理的なものが求
められる。演者らは小児の治療が安全にかつ円滑に行われるよう、
小児と、その保護者に対し、様々なアプローチを行っている。幾つ
かを紹介し、更により良いものとするため考えてみたい。

今回は、治療そのものの小児の治療を行う上での情報を得る問診
や諸検査などの一個人に対する重要なコミュニケーションの部分はテ
ーマから外し、あくまで、多数の患者に対し、共通の理解を得るた
めの手段としての様々な方法を模索した。掲示物や、説明書、また
は、待合室でのビデオなどのメディアに頼り、あえて、診療中には
口頭ではその補足にとどめ、簡潔に説明を行い得るように勤め、母
親、保護者の反応を見た。

まとめ：このようなシステムで行うと、えてして冷たい治療の雰
囲気となりやすいと思われるが、実際、診療室の治療時間の短縮が
確認された。また、治療の雰囲気が、あくまで口頭によるコミュニ
ケーションよりメディアによるものが相対的には多くの理解が得られ
た。しかしながら、信頼関係を得るためより多くの対話を求める希
望も保護者から感ぜられるようになった。今後さらに良い信頼関係
を持ち、治療の成果をより良いものにするため考えてみたい。